

ギムノカリキューム愛好家のために、2019年に、世界的に流通している雑誌で論文発表されたギムノカリキュームの新種をインターネット雑誌 *Schütziana* のホームページ (<http://www.schuetziana.org/>)に記載されているニュースを参考に紹介すると以下のようになる。

記述の順番は：①学名、②著者名、③論文名、④公表雑誌名と記載頁等、⑤基準標本及び正基準標本寄託先、⑥産地情報、発見年と発見者等、⑦註釈である。註釈は、論文を読んで要点を記述した。

***Gymnocalycium kuehhasii* Neuhuber et Sperling subsp. *corneuspinum* Sperling et Strub, subsp. nov. (新亜種)**

Sperling, R. & Strub, T. (2019) | New localities concerning the distribution of *Gymnocalycium kuehhasii* Neuhuber et Sperling. - *Schütziana* 10(2): p. 29-62.

**基準標本**：自生地で採取された種子から育てられ、栽培された開花球、正基準標本：フォルカー・シェードリヒ氏 (Volker Schädlich) フィールド番号 VoS 10-807 (寄託先植物標本館と収蔵番号 WU、4117：WUはウイーン大学附属植物標本館)

**由来地**：この植物はアルゼンチン、サンチャゴ・デル・エステロ州、村落オホ・デ・アグア (Villa Ojo de Agua) の東、石の多い土地で草の中灌木の下に生えている。GPS(南緯 29°31.179, 西経 63°38.134、海拔高度: 375 m) 最初の発見は2010年1月17日

**註釈**：著者達はコルドバ州からサンルイス州の南まで広がる *G.kuehhasii* の分布地域で種々の個体群を調査し、形態学的特徴の違いに基づいてこの亜種を記載した。基本種 (*G.kuehhasii* subsp. *kuehhasii*) との相違点はオリーブ色の胴体、より間隔の開いた刺座、幅広の稜、角色の刺と中刺の存在、刺は古くなくても灰色に留まり黒くならない点が挙げられている。名前は角色の刺を意味する。



写真：*G.kuehhasii* subsp. *corneuspinum*  
VoS10-807 Schädlich 氏のホームページ (<http://www.gymnos.de/>) より

***Gymnocalycium kuehhasii* Neuhuber et Sperling subsp. *incurvatispinum* Sperling et Strub, subsp. nov. (新亜種)**

Sperling, R. & Strub, T. (2019): New localities concerning the distribution of *Gymnocalycium kuehhasii* Neuhuber et Sperling. - *Schütziana* 10(2): p. 29-62.

**基準標本**：アルコール漬けされた、自生地で採取された種子から育てられた開花可能な個体、正基準標本：ライナー・スパーリング氏 (Reiner Sperling) の SPE 142-63-2013 (植物標本館番号 WU 4116).

**由来地**：この植物はアルゼンチン、コルドバ州、サン・フランシスコ・デル・チャニャール (San Francisco del Chañar) の南西 GPS (南緯 29°55.053, 西経 63°50.502、海拔高度 600 m)、石の多

い地面、灌木の陰の下、草の中に生えている。最初の発見は 2013 年 1 月 24 日

註釈: *G.kuehhasii* の分布地域の南端に位置する個体群で、基本種 (*G.kuehhasii* subsp. *kuehhasii*) との相違点は濃い黒緑色の胴体、より幅の狭い稜、刺の配置と形状が挙げられている。名前は内側に湾曲する刺から来ている。

Gymnocalycium 誌の最新号にレプカ氏等 (Řepka, R. et al.) が同様に同じ分布地域から、*G.kuehhasii* の個体群を現地で調査した結果を報告している。彼等も分布域が縦に長い *G.kuehhasii* の様々な個体群の数十個の個体から、様々な形質を調査した。彼等は標準的な *G.kuehhasii* の個体群、それらから逸脱した北端と南端の個体群、及び同所的に生息する *G.quehlianum* (和名; 龍頭) から得た多量のデータを統計的手法 (PCM((主成分解析)、箱ひげ図)を用いて解析した。その結果からの彼らの結論は、亜種 *corneuspinum* は分類学的には *G.kuehhasii* の異名



写真: *G.kuehhasii* subsp. *incurvatispinum* SPE136-5913, Schütziana のホームページより

である、そして亜種 *incurvatispinum* は *G.quehlianum* と *G.kuehhasii* との同倍数体交配による雑種としている。 *Gymnocalycium incurvatispinum* (Sperling et Strub) Řepka comb. nov. (pro nothospecies, *G.kuehhasii* x *G.quehlianum*) (註:意味は *G.kuehhasii* と *G.quehlianum* との交配雑種として)

#### *Gymnocalycium gaponii* subsp. *macrocarpum* Řepka subsp. nov. (新亜種)

Řepka, R. (2019): A new subspecies of *Gymnocalycium gaponii* Neuhuber. - *Gymnocalycium* 32(1): p. 1301-1310.

基準標本: 採取者: ラドミール・レプカ氏 (Radomír Řepka) 採取番号. RER 492.: 採取年月日: 2012 年 1 月 22 日(寄託先 PR と、収蔵番号 907715, 正基準標本).

由来地: アルゼンチン、コルドバ州、北西部、町シエナガ・デル・コロ (Ciénaga del Coro) グアサパンパ (Guasapampa) への非舗装道路の土手、町から約 3.8km 南西, 砂の多い土壌、海拔高度 1026m GPS : 南緯 31°4'13.225"、西経 65°18'15.558"

註釈: 基本種 (*G.gaponii* subsp. *gaponii*) とは白い花、より長くより幅広の果実、より小さな種子が異なる。他の亜種 (*G.gaponii* subsp. *geyeri*) は新記載された亜種とはピンクの花色、著しい芳香、ピンクの花糸、小さな果実、より大きな種子が異なる。名前は大きな果実を意味している。

#### *Gymnocalycium cardenasianum* var. *pseudocrassispinum* Milt var. nov. (新変種)

Milt, I. (2019): *Gymnocalycium cardenasianum* Ritter (historie druhu a popis nového taxonu). - *Cactaceae etc.* 29(1): p. 25-31.

基準標本: オルモック地域博物館(チェコ共和国)に収蔵番号 B172328 の下に寄託

由来地: ボリビア、カリサル (Carrizal) の南 60km、リオ・グランデ河 (Rio Grande) とリオ・ヒグエリタ (Rio Higuierita). (グーグルの写真ではカリサルの南にリオ・グランデ河に小さな河が合流

している地点がある)

註釈： 学術された文献が入手出来ていないので、ミルト氏のホームページ (<https://www.carciton.cz/kaktusy/clanky9.htm>) にチェコ語及び英語の短い解説が載っている。それを参考にする。：“ 胴体は単幹、高さは 4cm から 7cm、幅は 5cm から 9cm、扁平な球形、頭頂部は幾分窪みが付けられている、表皮は滑らか、あたたかもベルベットのように、艶消し、灰緑色から暗緑色まで。稜は数で 7 個から 10 個、非常に平坦、垂直に流れ下っている。下部では幅 4cm から 6cm 胴体中央の高さでは幅 3cm から 4cm 胴体下部では殆ど盛り上がっていない、上部ではただ少し盛り上がっているだけ、アゴは無い、ただ非常に繊細な切り込みを刺座の上に持つ、稜間の切り込み(溝)は真っ直ぐ、胴体の下部で殆ど認識できない。刺座は楕円形、(幅) 3mm x (長さ) 5mm、ただ僅かに窪んでいる、少しフェルト状、フェルトは灰色っぽい。刺は頂点から直接成長している、それで 頭頂部は強く刺で覆われている。縁刺は側方へ 3 対から 4 対、1 本から 2 本の刺は下方を指している、針形状、切断面は円形、長さ方向に鋸歯状、時々多く、時々少ない 長さの最初の三分の一は突出し、その後、再び胴体の方へ強く曲げられている。側方へ、下方へあるいは上方へ強く曲げられている、捩じれている、時々胴体の方へ大きく傾斜している。別の場合、強く曲げられて、突き出している、中刺は 0 本から 1 本、強く曲げられている、縁刺と同じ長さ。時々刺座の上部に少し上方を向いた更に 2 本の弱い縁刺を持つ、成長時の刺色は黄茶色、先端は茶色、根元は緑色っぽい黄白色、後に刺は麦藁色から角色まで。 頭頂部の上で新刺は強く絡み合っており、網状の纏れを形成する。それは花の開花を制限する。はるかに短い花、花筒は非常に短い、果実は非常にがっちりして、幅方向に圧縮されている、種子は基本形と同じ。正基準標本はチェコのオルモック (Olomouc) の国家の歴史と地理の地域博物館の植物標本館に在庫番号 B172328 の下に寄託されている。基準標本は番号 959 の下にイワン・ミルト氏のコレクション中で栽培されている。分類群の名前が示すように、刺の様子は *Astrophytum crassispinum* (大鳳玉) の見事な刺の様子を想起させる。”

ホームページ載せられている写真では、比較的小さな胴体に胴体を包み込むように、黄茶色から茶色の太くて、大きく曲がり捩じれた刺が出ている光琳玉である。ミルト氏の記載する種は自身で現地に行って採取した種は少なく、殆ど全て他の人が現地で採取した種子から育てた苗に基づいている。この種の現地での写真はホームページに載っていない。ミルト氏が記述した、産地に近いフィールド番号には、VS(Vladimir Sorma) 475, *Gymnocalycium cardenasianum* var., soutok(合流) Rio Grande a Rio Higuierita, 2733m がある。この産地からの植物から選別したのかも知れない。



写真; *G. cardenasianum* var. *pseudocrassispinum*, Milt 氏のホームページより